



2011年6月4日（土）→7月3日（日）



「Shizuoka 春の芸術祭」改め
ふじのくににせかい演劇祭 2011
 WorldTheatreFestivalShizuoka under Mt.Fuji 2011

今年より名称を改め、新しくスタートする「ふじのくににせかい演劇祭」――。

「ふじのくに（静岡県）と世界は、演劇を通じて繋がっている」というイメージを、このタイトルに込めました。世界最先端の演劇から古典舞踊まで、9ヶ国 11 演目のラインナップで開催し、多彩な舞台芸術を堪能していただけます。

SPAC の新しい演劇祭にご期待ください。

主催：SPAC―(財)静岡県舞台芸術センター
 〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田 79-4
 Tel.054-203-5730 Fax.054-203-5732
 E-mail アドレス mail@spac.or.jp

ふじのくに芸術祭共催事業／後援：国際交流基金、静岡県教育委員会、静岡市

「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についての詳しい情報は、随時 SPAC 公式サイトでお知らせいたします。

<http://www.spac.or.jp>

上演演目の写真素材、より詳細な資料等、別途ご用意しております。ご希望の方はお申し付けください。

■「ふじのくにせかい演劇祭 2011」開催にあたって

SPAC-(財)静岡県舞台芸術センターでは、1999年の「第2回シアター・オリムピクス」の開催を契機に、2000年より、世界中から優れた舞台芸術を招聘する「Shizuoka 春の芸術祭」という演劇祭事業に取り組んで参りました。しかし、当初は春期に行われていた同芸術祭も、ここ数年は6月から7月の開催となっており、名称が季節にそぐわない面がありました。また2011年はSPAC15年目の節目の年に当たることもあり、演劇祭の名称を改め、新しいスタートをきることにいたしました。

「ふじのくにせかい演劇祭」というタイトルには、ふじのくに（静岡県）と世界は、演劇を通じて繋がっている、というイメージが込められています。静岡県の文化政策である「ふじのくに芸術回廊」と連携しながら、世界最先端の演劇やダンス、優れた古典芸能などを招聘し、静岡で世界中のアーティストが出会い、交流する——そんなダイナミックな「ふじのくにと世界の交流（ふじのくにせかい）」を理念としています。

第1回目の2011年は、9ヶ国11演目のラインナップで開催いたします。

SPAC 芸術総監督・宮城聡の演出作品である『真夏の夜の夢』や『天守物語』といった祝祭感溢れる演目をはじめ、世界初演の『エクスターズ』（タニノクロウ作・演出）や、初代SPAC 芸術総監督・鈴木忠志の最新作『椿姫—何日君再来』、また日本初紹介となるフランスの劇作家・演出家ジョエル・ポムラの『時の商人』や、アメリカの劇団「テンポラリー・ディストーション」による『ウェルカム・トゥ・ノーウェア』などの現代的な視点に迫る話題作や問題作を厳選いたしました。

新しく出発するSPACの演劇祭、「ふじのくにせかい演劇祭」にご期待ください。

■SPAC (Shizuoka Performing Arts Center) とは…

SPAC-(財)静岡県舞台芸術センターは、専用の劇場や稽古場を拠点として、専属の俳優、専門技術スタッフが活動を行なう日本で初めての公立の文化事業集団です。芸術総監督・宮城聡のもと、舞台芸術作品の創造と上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術を通じた人材育成事業等を目的として活動しています。

■SPAC 芸術総監督プロフィール

宮城聡（みやぎ さとし）



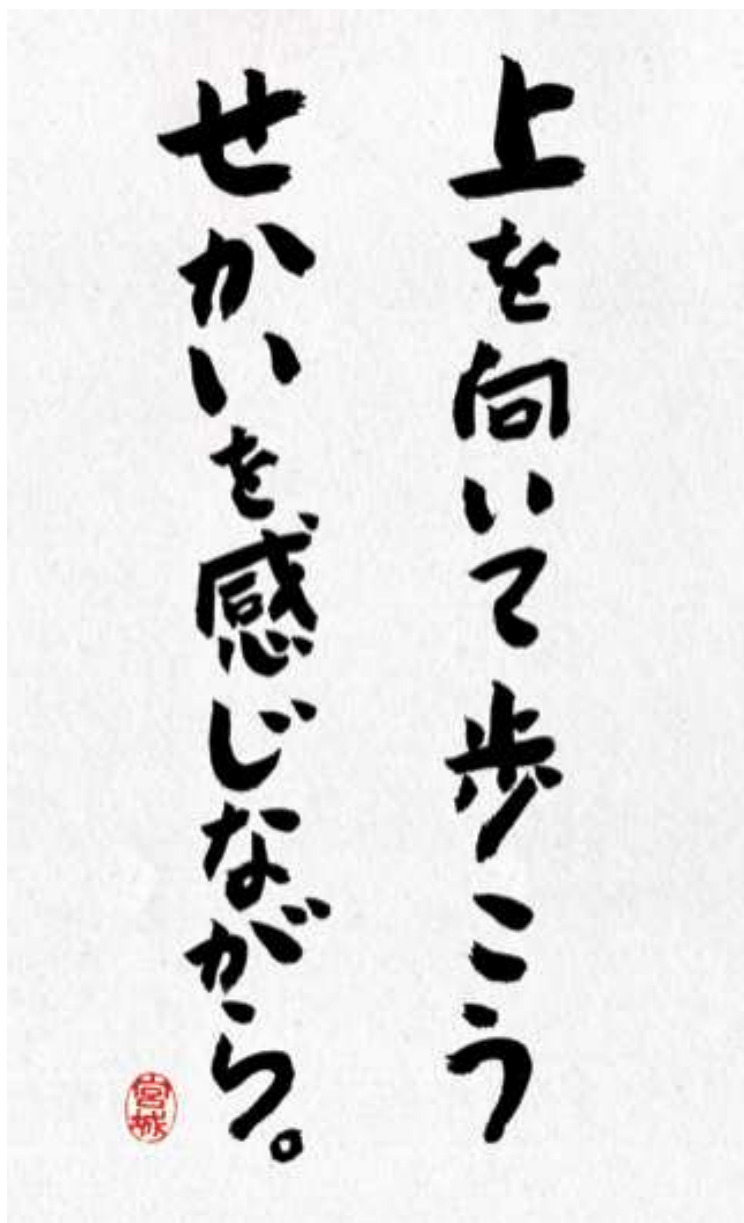
1959年東京生まれ。演出家。SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、90年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出は国内外から高い評価を得ている。07年4月SPAC 芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、また、静岡の青少年に向けた新たな事業を展開し、「世界を見る窓」としての劇場づくりに力を注いでいる。代表作に『王女メデシア』『マハーバーラタ』『パール・ギュント』など。04年第3回朝日舞台芸術賞受賞。05年第2回アサヒビール芸術賞受賞。

SPACの活動詳細や宮城聡ならびに各俳優のプロフィールは、SPAC公式サイトでご覧いただけます。

<http://www.spac.or.jp>

※「ふじのくにせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

■SPAC 芸術総監督・宮城聡からのメッセージ



劇場は、世間の「空気」からいつき距離をとって、
静かに、じっくり考えるための場所です。
劇場は、人間のことをもういちど好きになる場所です。
劇場は、「よし、自分はこの世、せかいのためにガンバろう」
と思っているのが自分ひとりではないことを
確認する場所です。
宮城 聡

※「ふじのくにせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は
「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当: 荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel: 054-203-5730 / Fax: 054-203-5732 / E-mail: arai@spac.or.jp

9ヶ国 11 演目のラインナップ

■演劇／日本

『真夏の夜の夢』

演出：宮城聡 潤色：野田秀樹 原作：W・シェイクスピア 小田島雄志訳『夏の夜の夢』より

■演劇／日本

『天守物語』 演出：宮城聡 作：泉鏡花

■ダンス／日本・カメルーン・フランス

『タカセの夢』 振付・演出：メルラン・ニヤカム

■演劇／日本

『エクスターズ』 作・演出：タニノクロウ

■ミュージカル／台湾・日本

『椿姫―何日君再来』 演出：鈴木忠志 原作：アレクサンドル・デュマ・フィス

■演劇／アメリカ

『ウェルカム・トゥ・ノーウェア』 作・演出：ケネス・コリンズ

■演劇／イタリア

『この狂暴な闇』 構想・演出：ピッポ・デルボーノ

■演劇／フランス

『時の商人』 作・演出：ジョエル・ポムラ

■古典舞踊／インド

『インド古典舞踊劇 ナンギャール・クートゥー』 演出：ゴーパル・ヴェヌ

■演劇／コロンビア・スイス

『シモン・ボリバル、夢の断片』 演出・翻案：オマール・ポラス 作：ウィリアム・オスピーナ

■演劇／フランス・スイス

『ヒロシマ・モナムール』 演出：クリスティーン・ルタイユール 作：マルグリット・デュラス

□厳選した 11 演目のほか、「フェスティバル bar」などの関連企画もございます。

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

演劇／日本 **宮城聡新演出**

ま な つ よ ゆ め
真夏の夜の夢

Manatsu-no-ya-no-yume

[A Midsummer Night's Dream]

2011年6月4日(土)、5日(日)に静岡芸術劇場にてSPAC芸術総監督・宮城聡の最新演出作『真夏の夜の夢』を上演いたします。

演出：宮城聡

原作：W・シェイクスピア

小田島雄志訳『夏の夜の夢』より

潤色：野田秀樹

音楽：棚川寛子

出演：赤松直美、石井萌水、泉陽二、いとうめぐみ、

大高浩一、加藤幸夫、木内琴子、貴島豪、

小長谷勝彦、佐藤ゆず、菅原達也、関川哲生、

たきいみき、瀧澤亜美、保可南、布施安寿香、

本多麻紀、牧野隆二、牧山祐大、眞野梨江、

山下ともち、吉見亮、若宮羊市、渡辺敬彦

日時：6月4日(土) 14時開演

5日(日) 12時30分開演

◎4日の終演後にオープニングレセプションを行います。

◎5日の終演後に、宮城聡(演出)とゲストによるアーティスト・トークを行います。(予定)

◎5日の終演後に、2階カフェ・シンデレラで、お客様が出演者と交流できる「カフェ・シンデレラで逢いましょう!」を行います。

会場：静岡芸術劇場

上演時間：未定 日本語上演／英語字幕

製作：SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター

協力：NODA・MAP



写真撮影：日置真光

※「ふじのくにせいかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

■SPAC 芸術総監督・宮城聡が野田秀樹の戯曲を初演出！

『真夏の夜の夢』は、劇作家の野田秀樹がシェイクスピアの名作恋愛喜劇を潤色(※)した作品です。野田は東京大学在学中に劇団「夢の遊眠社」を結成し、詩的な台詞と疾走感を特徴とする演劇手法によって、時代の寵児となりました。現在は、東京芸術劇場の芸術監督を務めながら、自作の上演を精力的に行っています。1992年に初演された『野田秀樹の真夏の夜の夢』(東宝制作)は、原作の持ち味を活かしつつ、野田が得意とする言葉遊びやジョークが豊富に盛り込まれた、笑い溢れる作品です。宮城聡は、野田と同じ高校の後輩にあたり、文化祭で野田の上演した作品が演劇を志すきっかけになったと語っています。以来、宮城は野田作品に注目し続けて来ました。宮城聡が野田戯曲を初演出する『真夏の夜の夢』に、ご期待ください。

※原作をもとに、表現を誇張し、おもしろくすること。

■宮城聡の新境地“祝祭音楽劇”が新しい演劇祭の幕開けを飾る！

■＜富士の麓＞を舞台に、恋の媚薬が巻き起こすドタバタ喜劇

本作は、2010年に宮城が新境地を拓いた『ペール・ギュント』に続く、“祝祭音楽劇”の第2弾です。俳優は役を演じ、また楽器を演奏します。音楽にのって展開し、＜世界＞をまるごと描く“祝祭音楽劇”。野田の潤色によって舞台を＜富士の麓＞に置き換えられたシェイクスピアの名作は、再出発するSPACの演劇祭(※)のオープニング作品として、ぴったりのしつらえです。移ろいやすい恋心をおもしろおかしく表現した、この明るく愉快的な“祝祭音楽劇”から、「ふじのくにせいかい演劇祭」はスタートします。

※2011年SPAC15年目にあたり「Shizuoka春の芸術祭」から「ふじのくにせいかい演劇祭」へ名称を改めました。

■あらすじ

創業130年の割烹料理屋「ハナキン」。その娘・ときたまごには許婚がいた。板前のデミである。デミはときたまごを愛していたが、彼女は板前のライに恋心を寄せていた。ときたまごとライは、＜富士の麓＞の「知られざる森」へ駆け落ちする。それを追いかけるのはデミと、彼に恋をしている娘・そぼろ。森では妖精のオーベロンとタイテーニアが可愛い拾い子をめぐって喧嘩をしている。オーベロンは媚薬を使ってタイテーニアに悪戯をしようと企み、妖精のバックに命令する。ついでにそぼろに冷たくするデミにも媚薬を使おうと思いつく。しかし悪魔メフィストフェレスが現れ、バックの役目を盗みとる。そこに「ハナキン」に出入りしている業者の面々が結婚式の余興の稽古にやって来て、事態はてんやわんやに……。

■作家プロフィール

野田秀樹（のだ・ひでき）

1955年、長崎県生まれ。劇作家・演出家・役者。東京芸術劇場芸術監督、多摩美術大学教授。東京大学在学中に劇団「夢の遊眠社」を結成し、数々の名作を生み出す。92年、夢の遊眠社解散後、ロンドンに留学。帰国後の93年に企画製作会社NODA・MAPを設立。以後も『キル』『パンドラの鐘』『オイル』『赤鬼』『THE BEE』『THE DIVER』『ザ・キャラクター』など次々と話題作を発表。近年では、中村勘三郎丈と組んで歌舞伎『野田版 研辰の討たれ』『野田版 鼠小僧』『野田版 愛陀姫』の脚本・演出も手掛ける。演劇界の旗手として国内外を問わず、精力的な活動を展開。2009年10月、名誉大英勲章OBE受勲。09年度朝日賞受賞。11年2月10日から3月31日、東京芸術劇場中ホールにてNODA・MAP第16回公演『南へ』上演。



■演出家プロフィール

宮城聡（みやぎ・さとし）

1959年東京生まれ。演出家。SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、90年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出は国内外から高い評価を得ている。07年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、また、静岡の青少年に向けた新たな事業を展開し、「世界を見る窓」としての劇場づくりに力を注いでいる。代表作に『王女メデиа』『マハーバーラタ』『パール・ギュント』など。04年第3回朝日舞台芸術賞受賞。05年第2回アサヒビール芸術賞受賞。



※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

演劇／日本 **静岡初演**

てんしゅものがたり

天守物語

Tenshu-Monogatari [The Castle Tower]

2011年6月18日(土)、25日(土)、7月2日(土)に舞台芸術公園 野外劇場「有度」にてSPAC芸術総監督・宮城聡演出作品『天守物語』を上演いたします。

演出：宮城聡

作：泉鏡花

演奏構成：棚川寛子

出演：阿部一徳、大高浩一、片岡佐知子、榊原有美、
桜内結う、鈴木陽代、館野百代、寺内亜矢子、
仲谷智邦、本多麻紀、美加理、三島景太、
吉植荘一郎 ほか

日時：6月18日(土) 19時30分開演

25日(土) 19時30分開演

7月2日(土) 19時30分開演

◎終演後に宮城聡(演出)とゲストによるアーティスト・トークを行います。

ゲスト：6月18日 ナガオカケンメイ(D&DEPARTMENT PROJECT 代表)

※6月25日と7月2日のゲストにつきましては、決まり次第 SPAC 公式サイト等でお知らせいたします。

◎アーティスト・トーク終了後に、お客様が出演者と交流できる「野外劇場前広場で逢いましょう！」を行います。

会場：舞台芸術公園 野外劇場「有度」

※背もたれのない客席になります。

※雨天時でも上演いたします。

上演時間：65分 日本語上演／英語字幕

製作：SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター



写真撮影：六渡達郎

■9 カ国 29 都市で絶賛された宮城聡演出の金字塔、7年ぶりに上演！

宮城聡演出の『天守物語』は、1996年に初演されて以来、日本国内、インド、パキスタン、中国、エジプト、韓国、アメリカ、フランス、台湾の9ヶ国 29都市で上演され、各地で大きな反響を呼んだ宮城聡の代表作のひとつであり、2004年以来7年ぶりの上演となります。静岡のみならず日本全国の演劇ファンにとって待望の再演であり、また初めて演劇を観る方にも祝祭的な劇場体験を楽しんでいただける絶好の機会となるでしょう。SPACが満を持してお送りする『天守物語』にご期待ください。

■泉鏡花の幻想世界が、風そよぐ初夏の野外劇場で華ひらく！

「人間界の理不尽さ」に翻弄される、白鷺城天守閣に棲む妖しの夫人・富姫と、若き鷹匠・図書之助——。第一次世界大戦中に書かれた『天守物語』は、幻想的な世界のなかに強さとは異なる尺度で美を見いだした泉鏡花の傑作戯曲です。鏡花は、戦争へ突き進む時勢に疑問を抱いていたのかもしれない。風そよぎ木々の匂い漂う開放的な野外劇場で華ひらく、鏡花の幻想世界。SPACの演劇祭ならではの醍醐味をご堪能ください。

■アジア演劇の探求が結実した、スペクタクル溢れる舞台

宮城聡は、アジアの多様な演劇伝統を現代の新しい創作につなぐ仕事をしてきました。鯉のぼりを裁断した色彩豊かな衣裳をまとった俳優たちは、日本の古謡から獅子舞やフォークソングに至るまで、雑多な文化が入り乱れる＜アジア的空間＞のなかで演じます。その身ぶりや踊りの所作は、各地の古典芸能に根差したものです。また、一つの役を語りと動きに分ける「二人一役」の手法が成熟したのもこの作品でした。この手法を用いることによって、言葉と身体の関係を見つめ直す仕掛けを創り上げ、その違和感のなかで葛藤する劇的な人間像を表現しています。宮城のアジア演劇探求の到達点——『天守物語』は、ハイブリッドな＜アジア的空間＞に立ち上がるスペクタクルです。

※「ふじのくにせいかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

■あらすじ

戦国時代。「白鷺城」の異名をとる姫路城第五重は、「人間は生きて帰れぬ」といわれる、魔界の者たちの棲家。居並ぶ妖怪たちをつかさどる天守夫人・富姫は、猪苗代に帰る妹分の亀姫に、城主・武田播磨守寵愛の鷹を土産として持たせてしまう。播磨守に鷹探しを命じられた若き鷹匠・姫川図書之助は、生きて帰れぬことを覚悟で第五重に現れる。富姫は妖怪に臆さぬ図書之助のいさぎよさに心をひかれ、命を奪わず地上に帰すが、主君の元に戻った図書之助はあらぬ誤解を受け、やむなく再び富姫の前にあらわれるのだった……。

■演出家プロフィール

宮城聡 (みやぎ・さとし)

1959 年東京生まれ。演出家。

SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター

一芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、90 年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出は国内外から高い評価を得ている。07 年 4 月 SPAC 芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、また、静岡の青少年に向けた新たな事業を展開し、「世界を見る窓」としての劇場づくりに力を注いでいる。代表作に『王女メデシア』『マハーバーラタ』『ペール・ギュント』など。04 年第 3 回朝日舞台芸術賞受賞。05 年第 2 回アサヒビール芸術賞受賞。



■作家プロフィール

泉鏡花 (いずみ・きょうか)

1873~1939

小説家。本名、泉鏡太郎。

父は名人肌の彫金師、母は能楽師の家系。1890 年上京、翌年尾崎紅葉の門に入った。『夜行巡查』(1895)、『外科医』(1896)などで観念小説の代表作家として名声を得たが、以後は浪漫的な作風に転じ、『照葉狂言』(1896)、『湯島詣』(1899)、『高野聖』(1900)、『歌行灯』(1910)などを発表し独自の存在を示した。しかし、自然主義の勃興に伴い不遇となり、日本の伝統美を受け継ぐ最後の物語作家として再認識されたのは大正中期以後である。ほかに長編『婦系図』(1907)や、『薄紅梅』(1937)、『縷紅新草』(1939)など。『天守物語』は1916年に書かれたが、泉の生前に上演されることはなかった。なおSPACでは『夜叉ヶ池』(1913)を宮城聡の演出で2008年と2009年に上演している。



写真：国立国会図書館ホームページより転載

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

ダンス／日本・カメルーン・フランス

スパカンファン・プロジェクト

ゆめ

タカセの夢

Le Rêve de Takase [Takase's Dream]

2011年6月5日(日)、19日(日)に舞台芸術公園 屋内ホール「楢円堂」にてスパカンファン作品『タカセの夢』を上演いたします。

振付・演出：メルラン・ニヤカム

出演：スパカンファン（静岡県の中高校生10名）

振付アシスタント：木野彩子

音響デザイン：山貫憲彦 映像：ニシモトタロウ

日時：6月5日（日）16時30分開演

19日（日）17時開演

◎終演後にアーティスト・トークを行います。
（予定）

5日：スパカンファン（出演）

19日：メルラン・ニヤカム（振付・演出）

会場：舞台芸術公園 屋内ホール「楢円堂」

上演時間：75分（予定）

製作：SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 協力：東京日
仏学院 後援：カメルーン大使館、フランス大使館、静岡
県教育委員会、静岡県私学協会



写真撮影：日置真光

演劇祭以後の公演スケジュール

東京公演 8月10日（水）、11日（木）

会場：シアタートラム

主催：SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター

提携：公益財団法人せたがや文化財団／世田谷パブリック

シアター 後援：世田谷区

静岡公演 8月19日（金）、20日（土）、21日（日）

会場：舞台芸術公園 屋内ホール「楢円堂」

主催：SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター

■スパカンファン『ユメミルチカラ』、好評につきリニューアル上演決定！

ダンス作品『ユメミルチカラ—REVE DE TAKASE—』——。2010年9月に静岡芸術劇場で初演されたこの作品を、本年『タカセの夢』と改題し、リニューアル上演いたします。「ふじのくにせかい演劇祭」での公演後、8月には東京公演、その後再び静岡で公演を行います。

■静岡の子どもたちが世界水準に挑戦するコンテンポラリー・ダンス

本作は「子どもたちが世界水準に挑戦するコンテンポラリー・ダンス」という理念のもとに制作されました。国際的に活躍するカメルーン出身の振付家・ダンサーであるメルラン・ニヤカムが指導にあたり、メンバーの個性を十分に引き出しつつ、結束力を高めることに成功しました。『タカセの夢』は出演者の1人である高瀬君がオーディション時に語った夢をもとに創られています。本作では「自然とともに生きるユートピアのような生活」が明るい未来像として描かれており、こうした未来についての肯定的なイメージは、子どもたちの表現だからこそ説得力をもって観る者に迫ってきます。子どもたちが切り拓く、希望に満ちた＜聖域＞——。『タカセの夢』にご期待ください。

■あらすじ

タカセはクラスメイトの女の子にモテモテで追いかけて回される——。しかしそれは夢で、目が覚めると現実の殺伐とした人間関係が広がっており、テレビゲームのような戦闘的なダンスが展開する。やがてタカセはそこを抜け出し、自然のなかで解放的に遊ぶ。その後、何十年か経ち、老人時代に移行する。おじいちゃんおばあちゃんになった彼らは、楽園のような場所で、かつての遊びを思い出し……。

※「ふじのくにせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

■「スパカンファン・プロジェクト」とは？

「スパカンファン (SPAC-ENFANTS) ・プロジェクト」は、オーディションによって選ばれた静岡県内の中高生10名が、「世界中の子どもたちが未来への希望を取り戻すことができるダンス」をコンセプトに新しい舞台を創造する、国際共同制作プロジェクトです。＜子どもたち独自の表現の可能性＞＝多様性を発揮してもらい、芸術表現として世界に通用するような高いクオリティをもったダンス作品の創造を追求します。2010年夏、ダンス作品『ユメミルチカラ—REVE DE TAKASE—』を静岡芸術劇場にて初演、さらに静岡県内東部、西部でのツアー公演を成功させました。第二期となる11年は、初演時の作品をさらに磨き上げて、「ふじのくににせかい演劇祭2011」に参加し、東京公演にも挑みます。※ENFANTS=フランス語で「子どもたち」の意味

■ 振付家プロフィール

メルラン・ニヤカム

Merlin Nyakam

振付家、ダンサー、歌手、俳優、ラ・カルバス・カンパニー (Compagnie La Calebasse) 主宰。14歳でカメルーン国立バレエ団に入団。16歳で首席ダンサーに登りつめる。1990年に「ラ・カルバス・カンパニー」を起し、91年に金の穂賞、最優秀ダンサー賞などを受賞。92年よりフランスに拠点を移し、様々な振付家の作品に出演。97年より、フランスで絶大な人気を誇るモンタルヴォ・エルヴュ・カンパニーに参加、以降すべての作品に出演。2000年、自身の振付による『遊べ！はじめ人間』を初演、同作品は07年SPAC主催の「Shizuoka春の芸術祭」でも上演、翌08年にもアンコール公演として上演された。10年『ユメミルチカラ—REVE DE TAKASE—』を静岡芸術劇場にて初演、同作品で静岡県内ツアーを行った。



■ 振付アシスタントプロフィール

木野彩子 (きの・さいこ)

札幌生まれ。幼少よりモダンダンスを始める。大学にて舞踊教育学を専攻。卒業後は牧野京子のもとで学び、ソロを中心



に自らの身体と向かい合った作品作りを続けている。“Edge”で「Yokohama solo duo competition 2003 横浜市芸術文化振興財団賞」を受賞。2004年より文化庁在外派遣研修員としてパリで研修、05年よりロンドンにて Russell Maliphant Company のダンサーとして活動。09年より神奈川と札幌を拠点に日本での活動をはじめ、10年赤煉瓦倉庫一号館にて「かめりあ」を発表し好評を得る。10-11年川崎市アートセンタークリエイティブサポートアーティスト。

■ 音楽家プロフィール

山貫憲彦 (やまぬき・のりひこ)

作曲家・編曲家・録音技術者、Grooveasia Records 主宰。作曲家・編曲家・録音技術者および音楽教育のシステム構築・指導者として20年を超えるキャリアをもつ。フジサンケイグループ国際オーディション番組“AsianBagus”グランプリ受賞者。「林瑋樹」(台湾)のプロデュースで東南アジアでミリオンコピーを獲得。多国籍ユニット“ASIABEAT”としてアメリカ、ベルギー、オランダ、フランスで作品を発表。現在、和太鼓を世界的に広めるべく、和太鼓スクール“TAIKO-LAB”の国内外を含む展開に尽力中。



■ 映像作家プロフィール

ニシモトタロウ

1964年ヒロシマ生まれ。ラララ研究所代表・ディレクター・アーティスト。ビデオクリップのディレクターを経て、Nestへの参加を期にメディアパフォーマンスの活動開始。国内外の様々なコンテンポラリーダンスや、舞台、音楽シーンなどで空間を使った映像表現を行う。近年は都市の地下空間の公開企画や、SCTというユニットにて建築物やインフラを使用したパフォーマンス活動も勢力的に行っている。女子美術大学及び阿佐ヶ谷美術専門学校の非常勤講師。
www.LaLaLaLab.com



※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

演劇／日本 世界初演

エクスタースズ

Extase

2011 年 6 月 4 日(土)、5 日(日)に舞台芸術公園 野外劇場「有度」にて『エクスタースズ』を上演いたします。

作・演出：タニノクロウ

出演：飯田一期、山田伊久麿 ほか

日時：6 月 4 日(土) 19 時 30 分開演

5 日(日) 19 時 30 分開演

◎終演後にタニノクロウ(劇作・演出)と宮城聡によるアーティスト・トークを行います。

会場：舞台芸術公園 野外劇場「有度」

※背もたれのない客席になります。

※雨天時でも上演いたします。

上演時間：80 分(予定)

日本語上演／英語字幕

協力：庭劇団ペニノ



2010 年『苛々する大人の絵本』より

写真撮影：Pierre Borasci

■精神科医から演劇人へ、 奇才タニノクロウ、静岡初登場！

タニノクロウは「庭劇団ペニノ」を主宰し、東京で活動する劇作家・演出家です。元精神科医であり、自宅マンションを改装して劇場にするなど、話題性に富んだアーティストとして知られ、奇抜な作風が人気を集めています。2000 年に劇団を創立して以来、わずか 4 年で海外から招聘されるようになり、なお活動の幅を広げています。『エクスタースズ』はタニノ初の静岡公演です。

■日本平で山ごもり、意表を突く舞台美術が野外劇場にそびえ立つ…

本作は、タニノが日本平中腹の舞台芸術公園に滞在し、3 ヶ月の製作期間を経て上演する新作です。タニノ作品の特徴の一つとして、仕掛けのある凝った舞台美術を挙げることができます。これまでの作品では、現実そっくりの空間を幻想的な世界に変化させたり、空間そのものを奇想天外な虚構の世界として創り込んだり、「魔術的」とも言える舞台を表現してきました。今回、野外劇場「有度」の広い空間をどのように演出するかに注目が集まります。果たして何が現れるのか……。

■＜欲望丸出し＞の人間たちがくりひろげる滑稽な妄想世界

これまでのタニノ作品は、現実と虚構が摩訶不思議に混じり合う、妄想のような世界を立ち上げてきました。そこには強い欲望を持った登場人物が現れ、馬鹿らしい戯れを繰り広げます。この欲望丸出しの人間たちが妄想の中に耽溺する世界こそが、まさに私たちが生きている世界のこともかもしれません。今回の新作『エクスタースズ』では、一体どんな世界が立ち上がるのでしょうか。タニノの類い稀な想像力が生み出す奇想天外な妄想世界にご期待ください。

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

■劇作家・演出家プロフィール

タニノクロウ

1976 年生まれ。富山県出身。
庭劇団ペニノ主宰・作家・演出家
で、元精神科医でもある。初めて
本格的に執筆した『笑顔の砦』



(2007)、子役の教育プログラムとして俳優たちが
“擬似家族”を演じる劇中劇の構成をとった『星影
の Jr.』(08) で、2 年連続岸田戯曲賞最終候補にノ
ミネート。劇団外での活動にも積極的に取り組み、
外部演出作品では古典戯曲と真正面から向き合い、
精巧で質の高い演出効果を上げ、劇作家・演出家と
して多彩な実力を発揮している。また、海外公演も
行っており、台湾 (04)、ドイツ (09)、ベルリン
HAU 劇場での演劇祭のほか、10 年には、スイス
(Theater Spektakel)・オランダ (Noorderzon)
の各演劇祭へ招聘された。国内演劇祭では、09 年に
『太陽と下着の見える町』でフェスティバル／トー
キョーへ初参加。その独特なイマジネーション、演
出方法が話題を呼んだ。

写真撮影：田中亜紀

■劇団プロフィール

庭劇団ペニノ

作・演出のタニノクロウを中心に、2000 年、昭
和大学演劇部を母体として発足。「庭」という一つ
の抽象的イメージのもと奔放に広がる様々な表現
形態を提示している集団として設立。自宅マンショ
ンを改造したアトリエ「はこぶね」での公演や、奥
行 50m にもなる巨大テントでの野外公演などの「非
劇場」での公演活動や、台詞の無い中、舞台装置内
に設置したジャズ・バンドのライブ演奏によって手
術中に起こる様々な言動や音を表現するような実
験的な演出を施すなどの、既存の演劇の形を超えた
「非定型な形式」としての表現方法を目指している。
劇団員は、代表のタニノクロウの他には構成を担当
する 3 名のスタッフがいるのみで、俳優・技術スタ
ッフは所属していない。タニノクロウと構成担当の
メンバーで行われる膨大な時間の企画会議の下、作
品の骨組みが創られるという独特な創作手法も特
徴である。

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は
「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

ミュージカル／台湾・日本 日本初演
台湾国立中正文化中心・SCOT 共同制作
流行音楽悲恋花劇

つばきひめ

椿姫 — 何日君再来

La Dame aux Camélias [The Lady of the Camellias]

2011 年 6 月 11 日(土)、12 日(日)に静岡芸術劇場にて招
聘作品『椿姫 — 何日君再来』を上演いたします。

演出：鈴木忠志

原作：アレクサンドル・デュマ・フィス

出演：翁寧謙、周明宇、吳朋奉、陳文彬、邱安忱、
SCOT ほか

日時：6 月 11 日（土）16 時 30 分開演

12 日（日）14 時 30 分開演

◎終演後に鈴木忠志（演出）と宮城聰によるアー
ティスト・トークを行います。

会場：静岡芸術劇場

上演時間：90 分

中国語・台湾語・日本語上演／日本語字幕

製作：台湾国立中正文化中心、SCOT

後援：台北駐日経済文化代表処



写真撮影：Liu Chen-Hsiang

© National Chiang Kai-Shek Cultural Center, R.O.C.

■巨匠・鈴木忠志が台湾で制作した、話題のミ ュージカル版『椿姫』！

『椿姫 — 何日君再来』は、初代 SPAC 芸術総監
督の演出家・鈴木忠志が台湾で制作したミュージカ
ルです。『椿姫』はヴェルディのオペラとして有名
であり、2009 年に鈴木はこのオペラの演出を手掛
けました。これを機に『椿姫』への関心は深まり、
ディマ・フィスの戯曲をもとに 11 年 2 月、台湾国
立劇場の制作でミュージカル版を演出し、現地では
大きな話題となりました。本公演はこの作品の日本
初演になります。

■アジアの流行歌に乗って、オペラで名高い 『椿姫』がドラマとして現代に蘇る

本作では、台湾流行歌史上に残る名作を十数曲織
り込んでいます。日本人にとっては異国情緒の漂う、
しかし懐かしい感じのする歌がちりばめられ、舞台
を華やかに彩ります。数百人のなかから鈴木が直接
オーディションで選んだ台湾の俳優を主役に起用し、
長い稽古を積み重ねて、この舞台が生まれました。
親しみやすい流行歌が、古典的な作品に現代の
息吹を吹き込んでいます。

■孤立無援の恋人たち、愛する女性を失った男 の行く末は…

鈴木忠志はこの悲恋物語に登場するマルグリッ
トとアルマンを「周囲の人々に受け入れられること
はなく、二人の愛情関係は孤立するものになる以外
にはない」と語っています。最後にマルグリットを
失うアルマンは、そうして精神を病むことになるの
ではないか、というのが演出の視点です。この独自
の切り口から舞台を構成し、物語が終わった後も物
語が続いているような余韻の残る作品を創り上げ
ています。流行音楽悲恋花劇『椿姫 — 何日君再来』
にご注目ください。

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は
「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

■原作のあらすじ

高級娼婦マルグリットは、病に犯されながらもパトロンの貴族たちとパリでパーティに明け暮れる日々を送っている。そこで彼女は、自分への一途な愛を捧げる青年アルマンと出会う。二人はパリでの華やかな生活を捨て、郊外で静かに暮らしはじめる。今までにない幸せを味わうマルグリット。しかしアルマンの留守中に彼の父ジョルジュ・デュヴァルが現れ、「家族の幸せのために別れてくれ」とマルグリットに迫る。アルマンを思い、身を引く決心をするマルグリット。裏切ったとアルマンに思わせるため、彼女はパリのパトロンのもとに戻る。真実を知らないアルマンは……。

■演出家プロフィール

鈴木忠志（すずき・ただし）

演出家。劇団SCOT主宰。1966年、SCOT(Suzuki Company of Toga)を創立。76年富山県利賀村に本拠地を移し、82年より、世界演劇祭「利賀フェスティバル」を毎年開催。世界各地での上演活動や共同作業など国際的に活躍するとともに、俳優訓練法スズキ・トレーニング・メソッドは、ニューヨークのジュリアード音楽院やモスクワ芸術座など世界の劇団や学校で学ばれている。独自の俳優訓練法から創られるその舞台は世界の多くの演劇人に影響を与えている。日中韓三ヶ国共同のBeSeTo演劇祭の創設者であり、演劇人の国際組織シアター・オリンピックスの委員の一人でもある。演出作品には、『リア王』、『廃車長屋のカチカチ山』、『ディオニュソス』、『シラノ・ド・ベルジュラック』、『エレクトラ』、『別冊 谷崎潤一郎』、『サド侯爵夫人』、『世界の果てからこんにちは』、『廃車長屋の異人さん』、『イワーノフ』、『幽霊—別冊イプセン』、『トロイアの女』、『劇的なものをめぐってⅡ』などがある。ケンブリッジ大学が刊行している20世紀を主導した演出家・劇作家21人のシリーズに、メイエルホリド、ブレヒト、ストレーレル、ピーター・ブルック、ハロルド・プリンス、ムヌーシュキン、ロバート・ウィルソンなどとともに、アジア人としてただ一人選ばれ、すでに『The Theatre of Suzuki Tadashi』として出版されている。



■ 出演者プロフィール

翁寧謙（ウオン・ニンチェン）

俳優。国立台湾大学経営管理学部卒業。台北フィルハーモニック管弦楽財団で勤務するかたわら演劇と出会い、舞台の世界へ。クラシックピアノ、フォークギターを学び、合唱団にも参加。インディーズ・バンドの活動で、ヴォーカル、作詞、作曲を担当。『オセロー』、『ハロー・ドーリー』（以上、ゴドー・シアター・カンパニー）などに出演。本作『椿姫』ではマルグリット役を演じる。

周明宇（チョウ・ミンユ）

クラシック、ポピュラー・ミュージック、演劇と幅広い活動を行うパフォーマー。東海大学（台中市）音楽学部声楽専攻卒業（修士号取得）。若手の教育にも力を入れ、現在、台湾を代表する混声合唱団Formosa Singersや淡江大学合唱団、国立陽明大学合唱団で指導を行う。2009年のNSOハロウィン・コンサートでは劇作・演出を担当。06年に自身のアルバムを発売。本作『椿姫』ではアルマン役を演じる。

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

演劇／アメリカ

日本初演

ウェルカム・トゥ・ノーウェア

Welcome to Nowhere (bullet hole road)

2011年6月11日(土)、12日(日)に舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」で招聘作品『ウェルカム・トゥ・ノーウェア』を上演いたします。

作・演出：ケネス・コリンズ

映像：ウィリアム・キュージック

出演：テンポラリー・ディストーション

日時：6月11日(土) 13時30分開演、

12日(日) 18時開演

◎終演後にケネス・コリンズ(劇作・演出)と宮城聡によるアーティスト・トークを行います。

会場：舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」

※ 背もたれのない客席になります。

上演時間：60分 英語上演／日本語字幕

出演：ニック・ピクスビー、ステイシー・コリンズ、ブライアン・グリーン、ロレイン・マトックス 映像内特別出演：ステファニー・シルバー、ジェシカ・グレイス・ペイガン 衣装：タラフォン・マレク 音楽：ジョン・サリー 後援：在名古屋米国領事館 名古屋アメリカン・センター



写真撮影：Jon Weiss

■現代アメリカ演劇の新鋭ケネス・コリンズ作品、アジア初上演！

アメリカ人劇作家兼演出家のケネス・コリンズは、2002年に劇団「テンポラリー・ディストーション」をニューヨークで創立して以来、フランス、カナダ、オーストリア等の演劇祭で取り上げられ注目を集めている新進気鋭のアーティストです。今回の静岡公演はアジア圏での初の上演になります。9.11同時多発テロ以降、日本では現代アメリカ演劇が紹介される機会に恵まれませんでした。本公演は現代アメリカ演劇が持つアクチュアリティを確かめることのできる絶好の機会となるでしょう。

■一編のロードムービーとともに織りなされる張り詰めた舞台

ケネス・コリンズ作品は、極限にまで動きを抑えた独特の演技を特徴とし、映画と演劇を融合させた斬新な作風で知られます。この『ウェルカム・トゥ・ノーウェア』では、全編を通じてロードムービーのような映像作品が流れるなか、舞台上では並行して演技が行われます。映像と舞台の関係は、重なり合ったり微妙にずれたり、また全く関係がなかったり、と様々な見方が可能となる仕掛けになっています。

■＜現代人の孤独＞が浮き彫りになる、オルタナティブ・シアターの傑作

舞台上に登場する人物は、直立してほとんど動かないままマイクを通して語ります。互いに向かい合うこともなければ触れ合うこともありません。こうした抑制の効いた演技や現実離れた語りを用いることで、俳優たちにはそこはかたない喪失感が漂い、皮肉にも映像作品に登場する人物の方が現実の世界を生きているようです。同時にジョン・サリーによるアンビエント・ミュージックが「せつなさ」を加え、＜現代人の孤独＞が抒情的に浮かび上がります。日常の忙しさを忘れ、少し感傷的でしかし心の奥底を開放するような気分になることでしょう。『ウェルカム・トゥ・ノーウェア』というタイトル通り「どこでもない場所」へ誘う「ロードムービー」ならぬ「ロードシアター」をご堪能ください。

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

■新聞・雑誌・ウェブ上の劇評より抜粋

◎ ル・モンド紙 (フランス)

『ウェルカム・トゥ・ノーウェア』は現代に親密劇を蘇らせた。

◎ レザンロキュプティブル誌 (フランス)

まれにみる映像世界と詩の力が織り成す、非常に美しい作品。

◎ NYシアター.com (アメリカ)

観客を魔法にかけるような、魅惑的で目の離せない芸術作品。間違いなく、私が今年観た中で最高の舞台の1つである。このような舞台は今まで観たことがない…心をつかんで離さず、記憶に長く留まり、我々をすっかり夢中にさせる作品。

◎ ニューヨーク・マガジン・オンライン (アメリカ)
インスタレーションとシュールレアリスム的なモンタージュを等しく合わせ持つ

◎ クイーンズ・クロニクル紙 (アメリカ)

暗闇に覆われた中、トーンを抑えて語る俳優たちが観客を魅了する…力を秘めたその演技と同じく、映像内のイメージにもうっとりとさせられる

■劇作・演出家プロフィール

ケネス・コリンズ

Kenneth Collins

劇作家、演出家、デザイナー。

テンポラリー・ディストーションの設立者。箱型に閉ざされた極度に密室的な空間での、動きを抑えた独特の演技スタイルを作品の特徴とする。リンカーン・センターの演劇ディレクターラボを卒業、マクダウェル・コロニー会員。戯曲『ウェルカム・トゥ・ノーウェア』はシアターフォーラム・インターナショナルにより出版され、長編映画としても製作が進められている。09年には、オーストリアのザルツブルク芸術祭において、一流の若手演出家を選定する「ヤング・ディレクターズ・プロジェクト」への招聘を受ける（アメリカ人演出家としては史上2人目）。アメリカ国内の他、カナダ、ヨーロッパ、オーストラリアなど、その活躍の場を国際的に広げている。



■映像作家プロフィール

ウィリアム・キュージック

William Cusick



ニューヨークを拠点に、映像作家、映像デザイナー、映画制作者として活動。演劇・オペラ・ダンス作品における映像製作において、アメリカ国内、カナダ、ヨーロッパ、オーストラリアなどで国際的な活動を展開、ダンサーのラス・タ・トーマスと共同で製作した作品『ロック・ザ・バレエ』は、2008～12年にかけて世界ツアーを続けている。テンポラリー・ディストーションのレジデント・ビデオ・デザイナーとして、舞台5作品、映像インスタレーション2作品を手がけ、『ウェルカム・トゥ・ノーウェア』の映画化では脚本・演出にも携わる。07年、ブロードウェイ作品『ユートピアの岸へ』（リンカーン・センター・シアター）でヘンリー・ヒューズ・デザイン賞の優秀映像デザイン賞を受賞。

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当: 荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel: 054-203-5730 / Fax: 054-203-5732 / E-mail: arai@spac.or.jp

演劇／イタリア

日本初演

きょうぼう やみ
この狂暴な闇

Questo Buio Feroce [This Wild Darkness]

2011 年 6 月 18 日(土)、19 日(日)に静岡芸術劇場にて招
聘作品『この狂暴な闇』を上演いたします。

構想・演出：ピッポ・デルボーノ

出演：ピッポ・デルボーノ・カンパニー

日時：6 月 18 日(土) 16 時開演

19 日(日) 14 時開演

◎終演後にピッポ・デルボーノ(演出)と宮城聡
によるアーティスト・トークを行います。

◎【おとな向け】刺激の強い表現がありますので、
若年者の観劇はおすすめしません。

会場：静岡芸術劇場

上演時間：75 分 イタリア語上演／日本語字幕

製作：Teatro di Roma, Emilia Romagna Teatro Fondazione,
Théâtre du Rond Point Paris, Théâtre de la Place Liege, Festival
delle Colline Torinesi, TNT Théâtre National de Toulouse
Midi-Pyrénées, Maison de la Culture d'Amiens, Le Merlan
Scène National de Marseille, Le Fanal Scène National de Saint
Nazaire

後援：イタリア大使館



写真撮影：Gianluigi Di Napoli

■「Shizuoka 春の芸術祭 2007」で絶賛された
ピッポ・デルボーノ再登場！

イタリアの演出家ピッポ・デルボーノは 2007 年
の「Shizuoka 春の芸術祭」で 2 作品を日本初演し、
好評を博しました。再演を希望するお客様の声に応
え、このたび 2 度目の静岡公演が実現します。『こ
の狂暴な闇』は 2006 年にローマで初演されて以来、
世界各地で上演され高い評価を受けています。演劇
ともダンスとも言える独特の表現によって、胸に迫
る祝祭空間を生み出します。

■エイズ発症者が残した克明な記録…

<死の影>に垣間見える<生命の讃歌>

『この狂暴な闇』はアメリカの作家ハロルド・ブ
ラドキー (Harold Brodkey) の自伝的エッセイに着
想を得ています。エイズによる死を前に書かれたこ
のエッセイは、彼の死後 1996 年に出版され話題を
呼びました(邦題『わたしの死の物語』)。死に至る
までの内面の変化が克明に記されたこのエッセイ
から、デルボーノは<生>を省察しています。<死
の影>に覆われた深刻な内面世界にも<生への希
望>が宿っている――。

デルボーノの想像力によって、死を前にした人間
の静かで力強い<生命の讃歌>が生み出されまし
た。

■多様な出演者との共同創作を経て、
人間の豊かさが溢れ出る舞台へ

ピッポ・デルボーノが主宰する劇団「ピッポ・デ
ルボーノ・カンパニー」には、精神障害により 40
年以上ナポリの施設で生活していた人や、ホームレ
スだった人などが参加しています。デルボーノは、
彼らとの共同創作を通じて、「社会的弱者」への偏
見を受け入れられなくなったと語り、またデルボー
ノ自身の芸術家としての成長において、彼らは主役
を担う存在である、と話します。人々の多様性こそ
が舞台の豊かさを湧き上がらせる――。『この狂暴
な闇』は私たちのリアリティを根底から揺さぶるこ
とになるでしょう。

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は
「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

■ 新聞掲載劇評より抜粋

◎ラ・クロワ紙 (フランス)

比類ない力を持った、演劇的偉業

◎ニューヨーク・タイムズ紙 (アメリカ) タラ・マルホランド

演劇でもあり、ダンスでもあり、カーニバルでもあり、音楽でもある作品は、カテゴライズしがたいものである。それらによって観客は、互い違いに、高揚し、疲れ、驚き、そして思いにふける。

◎モントリオール・ガゼット紙 (カナダ) パット・ドネリー

解釈に反抗している詩的方法にも通じるような、心につきまとう描写のパレードである。

■ 演出家プロフィール

ピッポ・デルボーノ

Pippo Delbono

演出家。1986 年、アルゼンチン出身のペーペ・ロブレドとともに『暗殺者の時』を発表し、スイス、スペイン、ペルー、アルゼンチン、メキシコ、イラクなどで 300 回に渡る上演を重ねる。この作品のドイツツアーでピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団と出会い、『壁』(90)でのコラボレーションへと発展。翌 93 年、ジェノヴァ近郊の町ロアーノに「ラ・ダンツァ・ネル・テアトロ (演劇の中のダンス)」と名付けたスタジオを開き、若い俳優・ダンサーの養成に努める。97 年にはアヴェルサ精神病院で行ったワークショップをもとに、ストリート・アーティストや障害者、ホームレスの人々とともに『浮浪者たち』を制作。以後、『浮浪者たち』のメンバーの多くがピッポ・デルボーノ・カンパニーの一員として活動することとなる。アヴィニョン演劇祭 (2009 年『嘘』ほか、3 度の招聘/共同製作) など多数の国際演劇祭に招かれており、「Shizuoka 春の芸術祭 2007」では『戦争-Guerra』、『沈黙-Il Silenzio』の 2 作品を上演した。また、映画へもその活動の幅を広げており、10 年『I am Love』(ルカ・グアダニーノ監督、ゴールデン・グローブ賞最優秀外国語作品賞ノミネート) でティルダ・スウィントンと共演。自作の映画の製作も行なっている。



■ 作家プロフィール

ハロルド・ブラドキー Harold Brodkey

作家、小説家。1930年イリノイ州生まれ。ハーバード大学卒業後、The New Yorkerなどへの執筆を始める。75年、76年に二度のオー・ヘンリー賞受賞。93年にエイズを発症、『This Wild Darkness』(邦題『わたしの死の物語』)はこの93年についての記述から始まる。同書は『ニューヨーク・タイムズ・ブックレビュー』でも絶賛された。96年、エイズによる合併症で死亡。

■ 劇団プロフィール

ピッポ・デルボーノ・カンパニー Compagnia Pippo Delbono

作家、俳優、演出家であるピッポ・デルボーノがアルゼンチン人の俳優ペーペ・ロブレドとともに80年代後半に創立。過去20年間に渡り、絶対的な本質、すなわち異質なものを取り除いた演劇、あるいは生命を鏡に映し出すような演劇に焦点を当てた作品を探究してきた。ピッポ・デルボーノの演出は美しくもあり、痛ましくもある。つつましい人間らしさであるとも言える。

(トロント公演の劇場サイトより転載)

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

演劇／フランス

日本初演

とき しょうにん

時の商人

Les Marchands [The Merchants]

2011 年 6 月 25 日(土)、26 日(日)に静岡芸術劇場にて招聘作品『時の商人』を上演いたします。

作・演出：ジョエル・ポムラ

出演：ルイ・ブルイヤール・カンパニー

日時：6 月 25 日(土) 16 時開演

26 日(日) 13 時開演

◎終演後にアーティスト・トークを行います。

(予定)

会場：静岡芸術劇場

上演時間：110 分 フランス語上演／日本語字幕

出演：サーディア・ベンーヴィア、アニエス・ベルトン、
リオネル・コディーノ、エリック・フォルテール、ミュリエール・マルティネリ、ルース・オライソラ、ジャン＝クロード・ペラン、マリ・ピエモンテーゼ 舞台美術・照明デザイン：エリック・ソワイエ 音楽デザイン：フランソワ・レマリー 選曲・音響：グレゴワール・レマリー 照明：ジャンガブリエル・ヴァロ 製作：ルイ・ブルイヤール・カンパニー 共同製作：Espace Malraux・Scène nationale de Chambéry / Théâtre National de Strasbourg / Centre Dramatique national de Normandie・Comédie de Caen / Centre Dramatique national d'Orléans-Loiret・Centre / Théâtre Paris-Villette / Théâtre Brétigny・Scène conventionnée du Val d'Orge / Arcadi・Action régionale pour la création artistique et la diffusion en Île-de-France 助成：アンスティチュ・フランセ 協力：東京日仏学院 後援：フランス大使館



写真撮影：

Elisabeth Carecchio

■ル・モンド紙で第1面を飾った劇作・演出家 ジョエル・ポムラ、日本初登場！

ジョエル・ポムラは、フランスで今最も注目度の高い劇作家兼演出家です。1990 年に自身の劇団「ルイ・ブルイヤール・カンパニー」を立ち上げて以来、自ら書き下ろした作品のみを演出してきました。『時の商人』はポムラの代表作です。2006 年の初演時にフランスの新聞ル・モンド紙の第1面に公演記事が掲載されるという、演劇作品としては異例の扱いに、その注目度の高さが伺えます。日本初上演となるポムラの作品にご期待ください。

■「失業の恐怖」と裏腹の「労働の狂気」を描いた幻想的なサスペンス

■今日の日本社会にも通じるテーマを内包

とある工場の爆発事故をめぐり、工場閉鎖を画策する者たちとそれに反対する労働者を描いたこの物語には、現代的な労働状況に対するアイロニーが潜んでいます。本作は「労働そのものが特権である」というフランスの労働状況を反映し、社会の底辺にいる労働者の「声なき声」を拾い上げた作品として驚きをもって受け取られ、2006 年のフランス「戯曲大賞」を受賞しました。音声として流れる「私」の回想に合わせて、舞台上では無言劇が展開します。しかし「私」の回想と無言劇は微妙に食い違っています。登場人物の固有名詞は一切語られません。これらの要素が違和感を生み、観客に不安を抱かせます。

■日本のホラー映画の影響も…

また本作は日本のホラー映画(J ホラー)の影響が色濃く、テレビから幽霊が現れたり、“こっくりさん”のように霊を召喚する場面が含まれています。底冷えのする恐怖感を掻き立て、現代的な労働状況における問いかけを浮かび上がらせる仕掛けになっています。

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

■新聞雑誌掲載劇評より抜粋

◎JDD紙（フランス）2006年10月

この我々の社会における“労働の価値”に注目し、且つ失業者の奪われてしまった「声なき声」に焦点をあてている。白黒映画のように、語り手の反響する声とともに、俳優達は、現実と空想世界が混ざり合う舞台上において、異常なほどはっきりと現代の悲劇を描写している。

◎ル・テレグラム・ド・ブレスト紙（フランス）

「人間は製品ではない」、これが、ポムラが、彼の作品『時の商人』を通じて伝えようとしているメッセージ。2006年の秋、パリのヴィレット劇場で上演された、この『時の商人』の全公演は完売となり、その作品は、圧倒的な称賛を受けた。（中略）ジョエル・ポムラは、そのテキストと演出において、非常に個性的な手法を創造するたぐい稀なアーティストである。

◎ル・モンド紙（フランス）2006年9月26日

『時の商人』は労働が人生の大半を占めていること、そしてそうでなくなることについての問いかけであり、形式的な実験に満ちた作品である。この舞台では言葉と身体、照明、小道具、音響が互いに響き合い、驚くべき存在感をもった俳優のグループによって演じられる。

◎テレマ誌（フランス）2006年9月6日

43歳になるポムラはフランスで数少ない、自分の書いた作品のみを上演している演劇人である。この16年でおおよそ15作品。一見するとこの非常に穏やかな世界から、あらゆる今日的な暴力が浮かび上がってくる。『時の商人』は仕事の世界、貧困、汚染、戦争、子殺しについて語っている。

■あらすじ

「あの女」は莫大な借金を背負いながら、郊外の集合住宅地帯に建てられた、高級マンションの21階にある部屋を買って住んでいる。「私」はそれに面した安アパートに住んでいる。「あの女」には仕事がないが、「私」はノルシロールという会社の工場で働いている。その地域のほとんどの人がノルシロールで働いている。「あの女」の父もそこで働いていたが、定年の数ヶ月前に、爆発事故に巻き込まれて亡くなった。「あの女」と「私」は、ときどきテ

レビを通じてこの父に出会う。ある日、「私」は背中に痛みを感じはじめる。「私」はそれが自分の仕事のせいだと知っている。痛みは日々大きくなっていき、「私」はある朝、家で動けなくなって病院に運ばれ、はじめて工場を欠勤する。その日、工場で原因不明の爆発が起き、多くの従業員が死亡する。爆発によって「工場で危険な兵器のための素材を製造している」という噂が広まり、工場閉鎖の話が持ち上がるのだが……。

■劇作家・演出家プロフィール

ジョエル・ポムラ

Joël Pommerat

フランスの劇作家・演出家。1963年生まれ。90年、ルイ・ブルイヤール・カンパニーを創立。このカンパニーの俳優7人と、「以後40年間、毎年新作を書き、役を割り振る」という契約を交わしている。装置・照明のそろった舞台で稽古を進めながら作品を完成させていくスタイルを取り、自らのカンパニーのために自ら書き下ろした作品以外は演出していない。ピーター・ブルックに評価され、2009年までブッフ・デュ・ノール劇場の提携アーティスト。また今年からオデオン座の提携アーティスト。主な作品に『世界に』（04）、『一つの手で』（05）、『赤ずきんちゃん』（05）、『この子』（06、批評家連盟仏語劇作品部門最優秀賞受賞）、『時の商人』（06、戯曲大賞受賞、『世界に』・『一つの手で』とともに三部作をなす）、『私は震える（1）』（07、モリエール賞最優秀現代作家賞・最優秀カンパニー賞ノミネート）、『ピノキオ』（08）、『私は震える（1・2）』（08、モリエール賞最優秀現代作家賞ノミネート）、『サークル／フィクション』（10）。

写真撮影：carecchio-pinoc



※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

古典舞踊／インド

インド古典舞踊劇 ナンギャール・クートゥー

クリシュナ神、
山を持ち上げ雨傘と成す

GOVARDHANODHARANAM

[Lifting of the Govardhana mountain]

女神パールヴァーティの嫉妬

PARVATIVIRAHAM [Parvati's Love Quarrel]

2011 年 6 月 25 日(土)、26 日(日)に舞台芸術公園 屋内
ホール「楢円堂」にて招聘作品『クリシュナ神、山を持ち上げ
雨傘と成す』『女神パールヴァーティの嫉妬』を上演いたしま
す。

演出：ゴーパル・ヴェヌ

出演：カピラ・ヴェヌ、ナタナカイラリ

日時：6 月 25 日(土) 12 時 30 分開演(上演演目『ク
リシュナ神、山を持ち上げ雨傘と成す』)

26 日(日) 16 時 30 分開演(上演演目『女
神パールヴァーティの嫉妬』)

◎終演後にゴーパル・ヴェヌ(演出)、カピラ・ヴェ
ヌ(出演)と宮城聰によるアーティスト・トー
クを行います。

会場：舞台芸術公園 屋内ホール「楢円堂」

上演時間：90 分

サンスクリット語上演／日本語字幕

後援：インド大使館



写真撮影：P.V.Jayan

写真提供：Natanakairali

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。

演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。

Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

■若き天才舞踊家カピラ・ヴェヌ、5 回目の静 岡公演決定！

演出家ゴーパル・ヴェヌは、インドに埋もれていた
古典舞踊劇であるクーリヤッタムを現代に再生
させ、ナタナカイラリという舞踊学校を創設し、そ
の伝承に尽力しています。その娘カピラ・ヴェヌは、
クーリヤッタムの中でも女性によって演じられる
ナンギャール・クートゥーの舞踊家です。20 代にし
て目覚ましい才能を発揮し、様々な国で公演を重ね、
多くの観客を魅了してきました。静岡でも過去 4 回
の公演を行い、その類い稀な身体表現が圧倒的な反
響を集めています。再演を熱望する声に応え、「ふ
じのくににせかい演劇祭 2011」への参加が決定しま
した。

■インドの神々の物語を身体ひとつで演じて みせる驚異のパフォーマンス

ナンギャール・クートゥーで劇の題材となるのは、
ヒンドゥー教の神話です。その多くは、インドの
神々が人知を越えた行いによって世界を救済する
物語です。身体ひとつで、この壮大な物語を演じて
みせるカピラ・ヴェヌ。言語化した身ぶりや眼の表
現によって、抑制された動きの中にも情動的な変化
を垣間見せ、観客を神話の世界に引き込みます。ま
た民族楽器の演奏が劇を盛り上げます。

■荘厳にして静謐——日本平中腹に佇む「楢円 堂」での必見の舞台

今回は舞台芸術公園 屋内ホール「楢円堂」での
公演になります。日本平の中腹に佇むこの小空間は、
荘厳にして静謐な印象を漂わせ、古典舞踊との相性
もよく、神秘的な体験が期待できるでしょう。「楢
円堂」に舞い降りるインドの神々——。伝統芸能で
ありながら、現代演劇・舞踊界に大きな影響を与え
ている驚異のパフォーマンスをご堪能ください。

■あらすじ

静岡初演

クリシュナ神、山を持ち上げ雨傘と成す

クリシュナ神はインドラ神の高慢さをくじくため、インドラのために牛飼いたちが開催する犠牲祭を止めさせ、代わりにゴーヴァルダナ山を尊ぶよう促した。インドラはクリシュナの行いに激怒し、すべての牛飼いを殺害すべく、大雨を降らせるのだが…。

静岡初演

女神パールヴァーティの嫉妬

シヴァ神の妻である女神パールヴァーティは、シヴァと美しい女神ガンガーとの関係に疑いを持ち、彼と口論をする。ガンガーに対する嫉妬や怒りに耐えられず、彼のもとを去るが、そのとき、魔王ラーヴァナによる地震が起こり…。

■演出家プロフィール

ゴーパル・ヴェヌ Gopal Venu

ナタナカイラリ伝統芸術研究研修センター所長。1945年、ケララ州（インド南部）生まれ。父が主宰した演劇学校でカタカリを学び、14歳で初舞台を踏む。75年、一般人がクーリヤッタムを学ぶことができる初の研修所ナタナカイラリを設立、ヒンドゥー教寺院以外での公演を実現。82年、自らクーリヤッタムを学ぶことを決意し、2年後に俳優としてもデビュー。79年からクーリヤッタムの海外公演を盛んに行い、世界20カ国に紹介してきた。2007年、クーリヤッタムの保存・普及活動における功績に対して日経アジア賞を受賞。



■出演者プロフィール

カピラ・ヴェヌ Kapila Venu

舞踊家。今日、最も優れたクーリヤッタム/ナンギヤール・クートゥーの踊り手の一人。1982年、ケララ州（インド南部）生まれ。7歳から舞踊学校ナタナカイラリでアマスール・マダバ・チャキヤール師と父ゴーパル・ヴェヌにクーリヤッタムを学び、9歳でデビュー。クーリヤッタム以外にも、女性舞踊モヒニヤッタムを母ニルマラ・パニカーから学び、国際交流基金アジア



センターの助成を得てカタカリのネトラビナヤ（眼による感情表現）を習得。武術カラリパヤットやヨガにも造詣が深く、近年では舞踏家田中泯とのコラボレーションも頻繁に行う。97年以降、アジア・ヨーロッパ・アフリカでの海外公演も数多い。08年、09年の「Shizuoka 春の芸術祭」に参加し、大きな反響を呼んだ。

■「クーリヤッタム」「ナンギヤール・クートゥー」とは？

クーリヤッタムは現存する世界最古のサンスクリット劇。その歴史は少なくとも10世紀まで遡ることができ、インド古典舞踊劇カタカリの原型ともなった。元来はインド南部ケララ州のヒンドゥー寺院内の専用劇場で、特定のカーストに属する俳優と演奏家によって上演されていた。ミラーヴと呼ばれる壺でできた打楽器の伴奏にあわせて、仏教の声明にも似た節回しで台詞が朗唱される。クーリヤッタムの最大の特徴は、ムドラと呼ばれる複雑なジェスチャーと多様な表情の使い分けにある。2001年、ユネスコにより「世界無形文化遺産」に指定された。ナンギヤール・クートゥーは、クーリヤッタムから派生した劇形式で、同じくらい長い歴史を持つ。クーリヤッタムが複数の俳優・女優によって演じられるのに対して、ナンギヤール・クートゥーでは一人の女優（かつてはナンギヤールというカーストに属した女性）がすべての役を演じる。クーリヤッタムの戯曲の一部を元にした作品が多いが、台詞はクーリヤッタムよりも音楽的だと言われる。

※「ふじのくににせいかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当: 荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel: 054-203-5730 / Fax: 054-203-5732 / E-mail: arai@spac.or.jp

演劇／コロンビア・スイス

日本初演

シモン・ボリバル、^{ゆめ}夢の断片^{だんぺん}

Bolívar, fragmentos de un sueño

[Bolívar, fragments of a dream]

2011 年 7 月 2 日(土)、3 日(日)に静岡芸術劇場にて招聘
作品『シモン・ボリバル、夢の断片』を上演いたします。

演出・翻案：オマール・ポラス

作：ウィリアム・オスピーナ

作曲・音楽指導：エリック・ボンガカム

出演：オマール・ポラス ほか

日時：7 月 2 日(土) 16 時開演

3 日(日) 12 時 30 分開演

◎2 日の終演後にオマール・ポラス(演出)と宮城
聡によるアーティスト・トークを行います。

◎3 日の終演後に、コロンビアのミュージシャンに
よるスペシャル・ライブを行います。(場所：静岡
芸術劇場カフェ・シンデレラ)

会場：静岡芸術劇場

上演時間：105 分 スペイン語上演／日本語字幕



写真撮影：Josep Aznar

助成：ジュネーヴ市文化局、メイラン市、プロ・ヘルヴェ
チア＝スイス文化財団、メイラン市文化スポーツ社会推進
財団、LODHEアソシエーション 後援：エクアドル共和
国大使館、コロンビア共和国大使館、スイス大使館、パナ
マ共和国大使館、ベネズエラ・ボリバル共和国大使館、ペ
ルー共和国大使館、ボリビア多民族国大使館、セルバンテ
ス文化センター東京 ※テアトロ・マランドロはフォロ
ム・メイラン劇場のレジデント・カンパニーです。

■コロンビア建国 200 周年、テアトロ・マラン ドロ 20 周年を記念してオマール・ポラスが祖 国ではじめて自作を制作した意欲作

『シモン・ボリバル、夢の断片』は 2010 年にコ
ロンビア建国 200 年の記念事業として制作された、
ラテンアメリカの解放の立役者、革命家シモン・ボ
リバルの物語です。コロンビア出身の演出家・俳優
であるオマール・ポラスが、20 歳のときにヨーロッ
パへ渡って以来、はじめて祖国で自作を制作した意
欲作であり、またポラスの劇団「テアトロ・マラン
ドロ」20 周年にもあたる記念碑的作品となりました。

■鮮やかなコロンビア民族音楽の生演奏にの って、ポラスがボリバルを熱演！

本作では、英雄シモン・ボリバルの生涯が、コロ
ンビア民族音楽の生演奏に合わせて展開します。
「バジェナート」や「ジャンーラ」と呼ばれる打楽
器や歌による多様な演奏にのって、ボリバルが熱狂
的に踊る場面もあり、生まれ育った土地の文化に陶
酔する心情が表現されています。ボリバルを演じる
のはポラス自身です。ポラスは、祖国を離れヨーロ
ッパで活動してきた自身の人生を、ボリバルの生涯
に重ねています。共にラテンアメリカとヨーロッパ
という二つの文化の狭間で揺れつつ、アイデンティ
ティの追求に生涯を捧げる、シモン・ボリバル、そ
してオマール・ポラス——。ポラス渾身の演技にご
期待ください。

■ラテンアメリカの解放を夢見た革命家シモ ン・ボリバルの物語

シモン・ボリバルはラテンアメリカのアンデス 5
カ国(ボリビア、ベネズエラ、エクアドル、コロン
ビア、ペルー)をスペイン統治から解放へ導いた革
命家です。鮮烈な軍事活動により「リベルタドル
(解放者)」と呼ばれ、ラテンアメリカの英雄的な
シンボルとなっています。テキストを担当したコロ
ンビアの作家ウィリアム・オスピーナは、ボリバル
の夢を「存在を認められずに生きてきた人々に形を
与えること」と表現しています。コロンビアの首都
ボゴタの貧民街として知られる「エル・カルトゥー

※「ふじのくにせいかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は
「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

チョ」という地区を舞台上に再現し、「存在を認められずに生きてきた人々」を貧困に苦しみながらもひたむきに生きる人々に重ね、ここを彷徨いながら理想を固めてゆくボリバルの姿が描かれます。

■ル・タン紙(スイス)掲載劇評より抜粋(2010年9月30日)

6月にフランスで初演され、夏の間中13000人のコロンビアの観客を驚愕させた『シモン・ボリバル、夢の断片』はこれまでの作品とは全くちがう、とオマール・ポラスは語っていた。たしかにこのシモン・ボリバルの栄光に捧げられた讃歌は、テアトロ・マランドロがジュネーヴで20年間にわたって見せてきた風刺の論理やバロック的笑劇とは非常に遠いところにある。ウィリアム・オスピーナのテキストは、ラテンアメリカという大地への、そしてその守護神的存在である革命家ボリバルへの愛の告白である。そしてオマール・ポラスは、ときに心を打つようなナイーヴさで、躊躇なく自らをこのボリバルという人物に重ね合わせている。

マリー＝ピエール・ジュヌカン

■演出家プロフィール

オマール・ポラス

Omar Porras



演出家、俳優。1963年、ボゴタ(コロンビア)生まれ。南米各地でダンスや演劇を学んだ後、20歳で渡仏。地下鉄で人形劇を上演しながら生活費を稼ぎ、ルコック演劇学校とパリ第三大学演劇科に通う。90年にジュネーヴ郊外の廃屋をアトリエに改造してテアトロ・マランドロを創立。バリ島、インド、日本などのアジア演劇の手法やコメディ・デラルテ、メイエルホリドのピオメハニカなど、あらゆる演技法を貪欲に取り込み、人形劇やダンス、音楽などとも調和させていくポラスの演劇実験室は、ヨーロッパや南米の各地から若い俳優たちを惹きつけていった。99年には静岡でのシアター・オリムピクスに『血の婚礼』で参加、以来2011年まで計7回来静し、観客を魅了し続けている。09年にSPACとの共同制作で『ドン・ファン』を演出。その他の代表作に『ユビュ王』、『貴婦人故郷に帰る』など。近

年は『愛の妙薬』、『魔笛』などオペラの演出も多く手がけている。07年、コロンビア国家功労勲章を受章。

写真撮影: Claude Dussex

■作家プロフィール

ウィリアム・オスピーナ William Ospina



コロンビア・ボゴタ在住のジャーナリスト、作家。1954年にアンデス山脈にあるパドゥアという村に生まれる。サンティアゴ・デ・カリ大学で法律と政治学を学び、75年にジャーナリズムと文学の活動をはじめ。82年、ナリーニョ大学コロンビアエッセー大賞を受賞。86年、初の詩集『砂の糸』を出版。88年から89年にかけて『ラ・プレサ・デ・ボゴタ』紙日曜版の編集責任者。92年、コロンビア文化院詩部門最優秀賞を受賞。コロンビアの都市パンブローナの創立者であるペドロ・デ・ウルスアの生涯を扱った初小説『ウルスア』(2005)を発表。この小説は大きな成功を収め、その第二部である『肉桂の平和』もロムロ・ガレゴス賞(ラテンアメリカで最も重要な文学賞)を受賞した。この世代において最も明確に政治的態度表明をしている詩人・エッセイストの一人と見なされている。

ドラマトゥルギー: オマール・ポラス、サンドロ・ロメロ 演出
助手: ジャヌ・ピヨ 出演: オマール・ポラス、カルロス・グティエレス、ファニータ・デルガド、ゾライダ・ロハス、エリック・ボンカム、エキオ・セリアノ・パティエーニョ、ジェイソン・カリージョ、ルイス・カルロス・セリス、アンドレス・ロドリゲス、ルイス・エドゥアルド・ガルソン 舞台・小道具デザイン: アメリー・キリツェトボール 衣装デザイン: アダン・マルティネス 制作: テアトロ・マランドロ 共同制作: テアトル・フォーラム・メイラン、テアトロ・コロシ、バルセロナ・グレック・フェスティバル、エスパス・マルロー＝シャンペリー・サヴォワ国立舞台、シャトーヴァロン国立文化創造普及センター

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当: 荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel: 054-203-5730 / Fax: 054-203-5732 / E-mail: arai@spac.or.jp

演劇／フランス・スイス 日本初演

ヒロシマ・モナムール

Hiroshima mon amour

2011年7月2日(土)、3日(日)に舞台芸術公園 屋内ホール「楯円堂」にて招聘作品『ヒロシマ・モナムール』を上演いたします。

演出・装置：クリスティヌ・ルタイユール

演出助手：ピエール・ラマンデ

作：マルグリット・デュラス

出演：ヴァレリー・ラング、太田宏、
ピエール・ラマンデ

日時：7月2日(土) 12時30分開演

3日(日) 16時30 開演

◎終演後にアーティスト・トークを行います。

◎【おとな向け】刺激の強い表現がありますので、
若年者の観劇はおすすめしません。

会場：舞台芸術公園 屋内ホール「楯円堂」

上演時間：90分

フランス語上演／日本語字幕

音響：フレッド・モリエ 照明：ステファニー・コラン 製作：ヴィディ＝ローザンヌ劇場 共同制作：ブルターニュ国立劇場、レンヌ演劇舞踊ヨーロッパセンター 助成：アンスティチュ・フランセ、プロ・ヘルヴェチア 協力：東京日仏学院、ラ・メナリジュリー・ド・ヴェール（「ステュディオラブ」企画として） 後援：フランス大使館、スイス大使館



写真撮影：Mario Del Curto

■西洋と東洋、女と男……

垣根を越えて響き合う＜戦争の記憶＞

『ヒロシマ・モナムール』は「ヒロシマ」で出会ったフランス人女優と日本人建築家の物語です。フランス人女優は、占領軍のドイツ兵と恋に落ちた過去を持っており、「ヒロシマ」で出会った日本人建築家との関係を通じて、辛い過去の記憶を蘇らせます。＜戦争の記憶＞を共有する西洋人と東洋人、女と男……。女優が帰国するまでに残された24時間、二人は街を彷徨います。越え難い垣根を越え、すれ違ながらも求め合う二人は、根源的な救済の感覚を求めているようです。人類史のターニングポイントとも言える「ヒロシマ」で、深く傷ついた二人の心は、果たして癒されうるのでしょうか。

■アラン・レネ監督の名作映画『24時間の情事』が演劇作品として蘇った！

1959年に公開されたアラン・レネ監督の映画『24時間の情事』——。広島市を舞台にしたこの作品は、西洋から見た「ヒロシマ」の姿を克明に写し取り、大きな反響を呼びました。本作は、この映画のシナリオをもとに、2009年に演劇化した作品です。

■フランス人女性の視点を通して、さらに哲学的に、もっと官能的に

シナリオを担当したのは女流作家マルグリット・デュラス。また演劇化にあたって演出を担当したのは、女性演出家クリスティヌ・ルタイユール。女優役を演じるのはルタイユールとともにマルキ・ド・サドなどの文学を舞台化して来た女優ヴァレリー・ラングです。フランス人の女流作家、女性演出家、そして女優が創り上げる『ヒロシマ・モナムール』——。フランス人女性の視点から捉え返される演劇版は、官能的で哲学的な舞台に仕上がっています。

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

■あらすじ

「彼女」は32歳のフランス人女優。平和についての映画の撮影のために来日する。映画は完成間近で、彼女はもうすぐフランスに帰ることになっている。フランスでは結婚していて、子どもも二人いる。「彼」は日本人の建築家。やはり結婚していて、40代。二人がどうやって、どんな状況で出会ったのかは分からないが、お互いをとても強く、本当に心から求め合った。しかし、24時間後には別れを迎えることになる……。

■テレマ誌（フランス）掲載劇評より抜粋 （2009年10月31日・11月6日号）

……薄暗い照明によって裸の体が浮き彫りになる。
（中略）舞台になった俳句のようである。……

■演出家プロフィール

クリスティーヌ・ルタイユール

Christine Letailleur

アミアン高等演劇学校で哲学学士、社会学修士取得後、パリ第十大学で演劇学DEA過程を修了。94年『ミューラー・マテリアル』の演出で「国際大学演劇フェスティバル」大賞受賞。96年にも『焼かれた詩』の演出と翻案で同賞受賞。98年・02年、ジェラルール・フィリップ劇場の常勤スタッフ。同劇場でプレヒト作『愛の詩集』、シュトラーム作『詩と力』、パゾリーニ作『石油』を演出（98年・00年）。01年『メディア』演出。また『牧師エフライム・マグヌス』を翻案・演出（04年第一部、05年完結編）。『ウエルベックによる新たな社会・感情秩序』（05）、『ウエルベック、あるいは世界の苦痛』（06）を構成・演出。そのほか翻案・演出作品として『閨房哲学、あるいはサド公爵の不道德家庭教師たち』（07）、『毛皮のヴィーナス、あるいは超官能者の告白』（08）など

■作家プロフィール

マルグリット・デュラス（1914~1996）

Marguerite Duras

フランスの女流作家。小説、戯曲、シナリオ、対話、翻案など幅広く一貫性のある作品を残す。同時に、平和のために同時代の多くの闘争に参加し、様々な分野における自由を愛した。1958年、映画制作会社からの依頼に応じて、アラン・レネのために広島と原爆を主題にした長編映画『ヒロシマ・モナムール』（邦題：『24時間の情事』）のシナリオと対話を執筆。1969年、マルグリット・デュラスはこう語っている。「本当にこのことを語ることができないという気持ちから映画を作ったんです。」

■出演者プロフィール

ヴァレリー・ラング Valérie Lang

フランス国立高等演劇学校（コンセルヴァトワール）のジャン＝ピエール・ヴァンサンとのクラスで俳優教育を受ける（1989-92）。92年・98年、ナンテール＝アマンディエ劇場のスタニスラス・ノルデーの劇団にアソシエート・メンバーとして参加。98年・2001年、ノルデーとともにジェラルール・フィリップ劇場（サン＝ドニ）の共同ディレクターとして「市民の劇場」の冒険を推し進めた。

太田宏（おおた・ひろし）

1970年大阪生まれ。同志社大学で演劇活動に参加。94年に俳優としてデビュー。98年以降、平田オリザ率いる青年団の所属俳優。98年の『ソウル市民』をはじめ『海よりも長い夜』、『ソウル市民1919』、『冒険王』、『東京ノート』、『御前会議』などに出演。そのほかの出演に三浦基演出『三人姉妹』、ローラン・グットマン演出『別れの唄』、アルノー・ムニエ演出『鳥の飛ぶ高さ』など。

ふじのくににせかい演劇祭2011

関連企画

SPAC路上パフォーマンス

SPACの俳優たちが街へ繰り出し、パフォーマンスを行います。「ふじのくににせかい演劇祭2011」開幕直前、ひとあし先に路上で俳優たちに出会えます。演劇祭の開催を盛り上げる熱いパフォーマンスをお楽しみください。

日時:5月28日(土)15:00
会場:静岡駅北口地下広場イベントスペース 他

フェスティバルbar2011

演出家や俳優たちと演劇の感想を語り合える交流の場をつくりました。毎週末の公演終了後、舞台芸術公園の「カチカチ山」にお集まりください。昨年のフェスティバルbarの会場「オルタナティブスペース・スノドカフェ」を経営し、静岡アート界を応援している柚木康裕プロデュースによる「ふじのくににせかい演劇祭」だけのおもてなし空間です。

日時:6月4日(土)、18日(土)、25日(土)、7月2日(土)21:00頃より
6月12日(日)19:00頃より
会場:舞台芸術公園「カチカチ山」

※東静岡駅経由静岡駅行き無料チャーターバスを運行いたします。お帰りの際にご利用いただけます。



フェスティバルbar2010の様子 ©スノドカフェ

劇場直行無料バス

ふじのくににせかい演劇祭2011 劇場直行無料バス 運行スケジュール

東京、浜松、三島、沼津から劇場までの無料バスを運行いたします! 公園=舞台芸術公園 劇場=静岡芸術劇場 *=お申込締切日

東京バス	「真夏の夜の夢」「エクスタース」「タカセの夢」 6月4日(土) 9:30 渋谷発 → 13:00 劇場着 6月5日(日) 18:30 公園発 → 18:40 劇場経由 → 22:10 渋谷着 *5月31日(火) 「ウェルカムトゥノーウェア」「椿姫-何日君再来」 6月11日(土) 9:00 渋谷発 → 12:30 公園着 6月11日(土) 18:45 劇場発 → 22:15 渋谷着 *6月7日(火) 「この狂暴な闇」「天守物語」「タカセの夢」 6月18日(土) 11:30 渋谷発 → 15:00 劇場着 6月19日(日) 19:00 公園発 → 19:10 劇場経由 → 22:40 渋谷着 *6月14日(火) 「時の商人」「天守物語」「ナンギヤール・クートゥー」 6月25日(土) 11:30 渋谷発 → 15:00 劇場着 6月26日(日) 18:45 公園発 → 18:55 劇場経由 → 22:25 渋谷着 *6月21日(火) 「シモン・ポリバル、夢の断片」「天守物語」「ヒロシマ・モナムール」 7月2日(土) 11:30 渋谷発 → 15:00 劇場着 7月3日(日) 18:45 公園発 → 18:55 劇場経由 → 22:25 渋谷着 *6月28日(火)
三島・沼津バス	「真夏の夜の夢」 6月5日(日) 10:00 三島発 → 10:20 沼津経由 → 11:30 劇場着 6月5日(日) 15:20 劇場発 → 16:30 沼津経由 → 16:50 三島着 集合場所 ▶ JR三島駅北口 / JR沼津駅北口 (Bivi沼津前) 集合時間は出発時刻の15分前です。 ※乗車条件 / 6月5日(日)「真夏の夜の夢」をご観劇の方
浜松バス	「この狂暴な闇」「天守物語」 6月18日(土) 13:30 浜松発 → 15:00 劇場着 6月18日(土) 21:20 公園発 → 22:50 浜松着 集合場所 ▶ JR浜松駅北口 (アクトシティ裏) 集合時間は出発時刻の15分前です。 ※乗車条件 / 6月18日(土)「この狂暴な闇」「天守物語」の2作品をご観劇の方

バス申込方法 電話:SPACチケットセンター TEL.054-202-3399 E-mail:bus@spac.or.jp

乗車ご希望のお客様は、①氏名、②ご希望の日にち、③人数、④当日ご連絡が取れる電話番号、⑤三島・沼津バス、浜松バス、6/11の東京バスを希望の方は往復か片道(往路か復路)かを、電話またはメールにてご連絡ください。メールの場合、件名欄に「○○バス希望」と必ずお書きください。

●このバスは定員になり次第、締め切らせていただきます。観劇予定のチケットは必ずバス予約の前に電話・窓口・ウェブにてご予約ください。●到着の時間は概ねの時間です。上演時間、出発時間、交通事情により大幅に変更となる場合もございますが、責任は負いかねます。予めご了承ください。●事情により、集合時間、行程を変更する場合があります。●バス車内ではシートベルト着用、禁煙にご理解ご協力をお願いいたします。

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

リーディング・カフェ

SPAC芸術街道★ 2011 春

リーディング・カフェ・ツアー

SPAC俳優とおしゃべりをしたり、お茶を飲んだりしながら、戯曲の読み合わせをする……。『リーディング・カフェ』は気軽に演劇体験ができる人気企画です。『ふじのくに芸術回廊』を盛り上げるべく、SPAC俳優が静岡県下の宿場町+αに出張します。お近くのカフェやレストランで、声に出して台詞を読む演劇の醍醐味をお楽しみください。

2011年2月 @沼津 自然派カフェレストラン tashio

東京
TOKYO

静岡
SHIZUOKA

名古屋
NAGOYA

静岡SHIZUOKA
静岡県中部 CENTRAL

4月21日(木) 19:00 夏 1
リアルフードレストラン伊太利亭
静岡市葵区紺屋町3-4
紺屋町地下街スクランブル交差点側
予約: TEL.054-251-0456
E-mail:italytei@ybb.ne.jp

4月22日(金) 14:00 夏 2
地域交流プラザ 美風
静岡市清水区銀座8-14 予約: TEL.054-363-1616

4月22日(金) 18:30 天 3
エコロジー団地 池田の森アトリエ
静岡市駿河区池田1271
予約: TEL.054-262-5580 (池田の森ベーカーリーカフェ)

5月11日(水) 14:30 夏 4
カフェ・パティスリー ミクニ
静岡市清水区港町2-8-1 予約: TEL.054-355-3921

5月13日(金) 14:00 天 5
杉山有絵画館
島田市尾川304 予約: TEL. 0547-35-6510

5月13日(金) 19:00 夏 6
三福旅館
焼津市本町3-2-1 予約: TEL.054-628-3582

5月20日(金) 18:00 夏 3
高松珈琲
静岡市駿河区池田581-2 予約: TEL.054-294-8667

5月21日(土) 14:00 夏 7
東海道町民生活資料館 (志田邸隣)
静岡市清水区蒲原3-19-28
予約: TEL.054-202-3399 (SPAC)

5月24日(火) 19:00 天 1
シェアオフィス ボタニカ
静岡市葵区研屋町25 予約: TEL.054-221-0190

静岡県西部 WESTERN

4月24日(日) 14:00 夏 英語バージョン 8
スタジオ鈴峰
浜松市中区名塚町155-1 予約: TEL. 090-5624-7129
E-mail: studiosuzumine@gmail.com

4月24日(日) 19:00 夏 8
珈琲香爐
浜松市板屋町522MYビル1階
予約: TEL. 053-413-1131

5月12日(木) 10:00 天 9
活魚料理「魚あら」
浜松市舞阪町舞阪2119-12 参加費 天井付き 2,000円
予約: TEL. 090-2929-3724
E-mail: oideyomaisaka@gmail.com (那須田)

読む戯曲
シェイクスピア作『夏の夜の夢』
泉鏡花作『天守物語』

参加費 静岡県内……1,000円
東京……1,500円
名古屋……1,500円
ドリンク代 込み

各会場で使用する戯曲を以下のマークで表示しております。
シェイクスピア作『夏の夜の夢』……夏 泉鏡花作『天守物語』……天

カップマークの会場では、ぜひマイカップをご持参ください。

5月12日(木) 15:00 天 8
カレー処ヤサカ
浜松市中区領家1-7-30 予約: TEL. 053-463-0223
Email: yasaca@yr.tnc.ne.jp

5月22日(日) 14:00 天 10
竹の丸
掛川市掛川1200-1 予約: TEL.0537-22-2112

5月29日(日) 13:00 天 11
菊川赤レンガ倉庫
菊川市堀之内201 予約: TEL. 菊川まちいき倶楽部
0537-28-8535 (金土日: 10:00~16:00)

5月29日(日) 19:00 天 8
浜松市茶室 松韻亭
浜松市中区鹿谷町11-4
予約: TEL.090-4266-4470 (森口)

静岡県東部 EASTERN

4月26日(火) 19:00 夏 12
比奈カフェ
富士市比奈628-9 予約: TEL.0545-38-3008
E-mail: hina-cafe@star.ocn.ne.jp

5月10日(火) 18:00 夏 13
GALLERYエクリュの森
三島市大宮町2-16-21 伸和ビル1F
予約: TEL.055-976-2320
E-mail: info@ecru-no-mori.jp

5月27日(金) 19:00 夏 14
三明寺
沼津市大岡4051 予約: TEL.055-929-2323

5月31日(火) 14:00 夏 15
cafe nature (カフェ ナチュレ)
富士宮市人穴346 予約: TEL. 0544-52-1788

お問い合わせ: SPACチケットセンター
TEL.054-202-3399

東京TOKYO

4月28日(木) 14:00 夏
だあしゑんか
新宿区舟町7田島ビル2F
予約: TEL. 03-5269-6151

4月28日(木) 18:00 天
シャンソンバー “ソフレ”
新宿区歌舞伎町1-1-7 (新宿ゴールデン街)
予約: TEL. 054-202-3399 (SPAC)

4月29日(金・祝) 18:30 夏
ベチコートレーン
文京区千駄木2-35-7
予約: TEL. 03-3821-8859

4月30日(土) 14:00 夏
ダイニングバー ベールギェント
墨田区両国4-32-16両国プラザ2F
予約: TEL. 03-3632-4004

4月30日(土) 19:00 天
旅館つたや
文京区本郷5-32-9
予約: TEL. 054-202-3399 (SPAC)
(旅館つたや TEL.03-3812-3231)

名古屋NAGOYA

5月18日(水) 19:00 夏
隠れ家ギャラリー「えん」
名古屋南区呼続1-10-23 予約: TEL. 052-822-7088

5月25日(水) 18:30 夏
i-café
名古屋市西区那古野1-7-14
予約: TEL.054-202-3399 (SPAC)
(i-café TEL.052-602-5387)

5月26日(木) 14:00 夏
カフェ アンナログ
名古屋市中区大須3-36-2 (大須商店街)
予約: TEL. 054-202-3399 (SPAC)
(カフェ アンナログ TEL.052-261-7758)

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当: 荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail: arai@spac.or.jp

ふじのくにせかい演劇祭2011

チケット情報

一般1公演 **4,000円**

SPACでは「15年目のSPAC」キャンペーンの一環として、
より多くのお客様に劇場へお越しいただくことを願い、
これまで以上に多彩な割引システムをスタートさせました。

早期購入割引 5月5日（木）までにお申込みの場合、1演目1名様**3,500円**

みるみる割引 3公演以上をお申込みの場合、1演目1名様**3,500円**

※電話・窓口のみでのお取り扱いになります。

ペア割引 ペアチケット（2枚）**7,000円**

※学割対象者は人数に含みません。

グループ割引 3名様以上でお申込みの場合、1名様あたり**3,200円**

※学割対象者は人数に含みません。※10名様以上は電話・窓口のみでのお取り扱いになります。

ゆうゆう割引 満60歳以上の方が対象です。

〔1公演1名様〕 **3,400円** 〔ペアチケット（2枚）〕 **6,400円**

※ご利用の際は必ず予約時に「ゆうゆう割引」でお申込みください。

※ペアチケットをご購入される場合、同行者も満60歳以上の方が対象になります。

※公演当日、受付にて年齢が確認できる身分証をご提示ください。

学割 学生の方が対象です。

〔大学生・専門学校生〕 **2,000円** 〔高校生以下〕 **1,000円**

※公演当日、学生証をご提示ください。

チケット前売り開始／4月10日（日）10:00～

■チケット購入方法

電話 SPACチケットセンター **TEL.054-202-3399** （受付時間／10:00～18:00）

窓口販売 静岡芸術劇場チケットカウンター （受付時間10:00～18:00）

ウェブ予約 <http://www.spac.or.jp/ticket.html>

セブン・イレブンでの販売 店内マルチコピー機をご利用ください。

携帯電話からの予約 <http://www.spac.or.jp/m/>

※チケットのご予約受付は公演前日の18:00までとなります。

当日券 当日券の有無を公演当日必ずお電話もしくはTwitter（@_SPAC_）にてお確かめください。

静岡県内の中学生以下の方をご招待しています。

静岡芸術劇場および野外劇場「有度」での公演では、静岡県内の中学生以下の方はご招待となります。

※【おとな向け】の公演は除きます。 ※各公演 30 名様までとなります。

※「ふじのくにせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は
「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp

交通情報

■ 静岡芸術劇場

JR東静岡駅南口から徒歩約5分、グランシップの東側(清水寄り)に入口があります。

電車



◎最寄り駅はJR東静岡駅。JR静岡駅より東海道本線(沼津・熱海方面、上り)で約3分(大人運賃:140円)です。
◎静鉄長沼駅から徒歩約12分です。
※1時間に5～6本、10～15分間隔で運行しています。

自家用車



JR東静岡駅を目標にお越しください。駅南のグランシップ一般駐車場をご利用ください。
※駐車料金1時間100円。劇場内の精算機をご利用ください。

■ 舞台芸術公園

JR静岡駅から約20分、JR東静岡駅から約10分です。(2011年2月現在) …無料チャーターバス



		JR静岡駅 北口11番乗場	JR東静岡駅 南口2番乗場	静岡芸術劇場前	舞台芸術公園
路線バス	12:30開演	11:22 →	11:32 →	— →	11:43
	13:30開演	12:22 →	12:32 →	— →	12:43
	16:30開演	15:22 →	15:32 →	— →	15:43
無料チャーターバス	16:30開演		15:00 → 15:45 →	15:05 → 15:50 →	15:15 → 16:00 →
	17:00開演		15:30 → 16:15 →	15:35 → 16:20 →	15:45 → 16:30 →
	18:00開演		16:30 → 17:15 →	16:35 → 17:20 →	16:45 → 17:30 →
	19:30開演		18:00 → 18:45 →	18:05 → 18:50 →	18:15 → 19:00 →

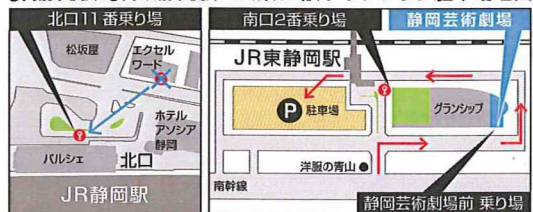
※路線バスは、静岡駅～舞台芸術公園は370円(大人)、東静岡駅～舞台芸術公園は250円(大人)の運賃がかかります。
※舞台芸術公園での公演終了後は、無料チャーターバスを運行します。アーティストトーク開始前は東静岡駅行き、アーティストトーク終了後は東静岡駅経由静岡駅行きとなります。



自家用車

◎東京方面より:東名高速道路清水I.C.から約30分。
名古屋方面より:東名高速道路静岡I.C.から約35分。
◎静岡バイパス千代田上土I.C.から約25分。
◎日本平動物園より日本平方面へ1.8キロ先左手の舞台芸術公園内駐車場をご利用ください。

JR静岡駅、JR東静岡駅バス乗り場、グランシップ駐車場地図



JR静岡駅北口、旧19番乗り場は廃止されました。舞台芸術公園へは11番乗り場をご利用下さい。

静岡芸術劇場、舞台芸術公園地図



静岡市
までの
アクセス

高速バス

静岡までの高速バスは「高速バスネット」のウェブサイトをご参照ください。
◎パソコンからのご予約 <http://www.kousokubus.net/PC>
◎携帯電話からのご予約 <http://www.kousokubus.net/k>

飛行機

富士山静岡空港からのアクセス

JR静岡駅までの所要時間:バスで50分

お問い合わせ:しずてつジャストライン株式会社 TEL.0120-012-990

※「ふじのくににせかい演劇祭 2011」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:荒井」までお願いいたします。
演目の写真素材、詳細な資料等、別途ご用意しておりますので、お申し付けください。
Tel:054-203-5730 / Fax:054-203-5732 / E-mail:arai@spac.or.jp